# 平成２７年度
# 川場村のあゆみ

＜防災行政無線のデジタル化＞

昭和５８年に整備された防災行政無線をデジタル化し、住民に迅速で正確な情報が伝達できるよう整備しました。ゲリラ豪雨や地震などの災害が多発している今日、情報伝達には、通信の多様性や確実性が求められており、集めーるやエリアメールと連動、各地区集会場と役場間での相互通信が可能となるなど、災害時における確実な通信手段の一つとなりました。

＜「川場村子ども教室」文部科学大臣表彰受賞＞

川場村では、文部科学省の放課後子ども教室推進事業において、地域の方々に協力をいただきながら子どもたちの安全で安心な居場所づくりを目的とした「川場村子ども教室」を実施しています。平成２７年度の優れた「地域による学校支援活動」推進団体として文部科学大臣表彰を受賞しました。

川場村子ども教室では、地域の人や社会教育団体の教育関係ボランティアが指導者となり、月曜日の放課後（月曜遊び場）や週末（おもいっきり探検隊）に様々な体験活動を実施し、異年齢の子どもや地域の人との交流を図ることにより、村全体で子どもたちの豊か

な心の育成に努めています。そうした活動が「地域の特色を生かした取組」として全国的に評価されました。

＜川場小マーチングバンド：全国金賞初受賞＞

「第３４回全日本小学校バンドフェスティバル」が開催され、５年連続でこの大会に出場した川場小学校マーチングバンド「川場キッズ」が、最高賞の金賞受賞の快挙を果たしました。

子どもたちと指導者である先生方の深い信頼関係が、本番で最高の演奏と演技を生み出しました。先生方の「今日の演奏で川場キッズのファンを増やしましょう。自分を信じて仲間を信じて。君たちならできる。」という温かい言葉が、子どもたちの心臓が飛び出そうなほどの緊張をほぐしました。

＜道の駅「川場田園プラザ」観光庁長官表彰＞

第７回観光庁長官表彰式が行われ、道の駅としては初めて「川場田園プラザ」が受賞しました。この賞は魅力ある観光地づくりやその魅力の発信、訪日外国人旅行客の誘致など観光の振興、発展に貢献し、その業績が顕著な個人及び団体に対して贈られるものです。

「川場田園プラザ」は、地域資源を活かした特産品の提供や地域のゲートウェイとしての観光案内などの取り組みにより、「道の駅」を目的地とする新たな観光ニーズを創出すること。村の施策である「農業プラス観光」の継続的な取り組みにより利根沼田地域全体の観光振興と活性化に貢献したことが評価されました。

＜内閣総理大臣表彰＞

内閣府主催の第９回みどりの式典において、川場村が緑化推進運動功労者の部で内閣総理大臣表彰を受賞しました。この式典は天皇皇后両陛下ご臨席のもと、自然の恩恵に感謝する５月４日のみどりの日に行われました。

友好の森を活用した森林保全活動を実施している「やま（森林）づくり塾」において、森林整備の基礎技術の取得や森林機能の学習を行うなどの活動を意欲的に行い、都市と山村交流の先進的な活動をしたことが評価されました。

＜木材コンビナート「ウッドビレジ川場」起工式＞

川場村では、生品地内の建設予定地で木材コンビナート建設の起工式を行いました。川場村は、平成２３年度より東京農業大学・清水建設（株）と産学官包括連携協定を結び、木材コンビナート事業構想について検討を重ねてきました。この事業は平成２７年度県産材加工拠点施設整備事業で整備され、利根沼田地域で切り出された間伐材などを加工・販売し村内８５％を占める森林を有効活用するものです。

＜ミラノ万博で川場村の魅力を発信＞

イタリア・ミラノにて万博が開催されました。この万博は史上初めて「地球に食料を生命にエネルギーを」をテーマに「食」を取り上げました。川場村からは、京都吉兆の徳岡氏の協力により開発された「雪ほたか米のスープ」を出展しました。ミラノ市内のステッリーネ宮殿では、来場された方々に日本産食材の豊かな味わいを楽しんでいただきました。昆布のだしと椎茸の旨み、そしてブランド米の「雪ほたか」がコラボレーションされたスープは人気の一品でした。

＜川場幼稚園閉園＞

昭和４０年５月、県の認可以来半世紀にわたり、幼児教育の歴史を刻んできた川場幼稚園は、平成２７年度の入園児が卒園する２９年度末をもって閉園することになりました。少子化が急速に進行し、川場村においても５，０００人以上あった人口が３，４００人まで減少しています。また、女性の社会進出と共働き家庭の増加により、今後さくら川保育園の入園割合が増える見込みです。川場村は、さくら川保育園に幼児教育を引き継いでいただけるよう依頼を行い、平成２８年度から幼保連携型認定こども園として開園することとなりました。